



2



3



1

## 夫婦の「今とこれから」を見つめて 生まれ変わった、新しいわが家。

〔兵庫県宝塚市〕 T様邸

ライフスタイルと間取りが合わなくなってきた…  
家族構成が変わって、そんな風を感じることはありませんか？  
今回ご紹介するのは、お子さまが独立されて  
ご夫婦おふたりとなられた住まいのリノベーション事例。  
住み慣れたわが家でより長く快適に暮らすヒントが満載です。



15年後に思いを巡らせて  
リノベーションを決意。



樹々の間から鳥のさえずりが聞こえる、自然豊かな高台の住宅街。その一角にあるグランドメゾンにこだわりのリノベーションをされた住まいがあると伺い、積水ハウスの担当者の案内のもと、T様邸を訪れました。

迎えてくださったのは、やさしい笑顔が印象的な奥様。今回のリノベーションを主体となってリードされました。

「主人も娘もお母さんの好きにすればいいんじゃない、と言ってくれて任せられたんです(笑)」

お部屋の隅々に光るセンスの良さを見ればご家族が一任されるのも頷ける話ですが、そもそも、なぜリノベーションをしようと思われたのでしょうか？

「娘が独立し、夫婦ふたりだけになって、あらためてこれから先の住まい方や暮らし方に思いを巡らせるようになったことが始まりです。入居して約15年ほど経って、築年数と傷み具合がイメージできていたので、今リノベーションをすれば、これから15年間は案外きれいに気持ち良く暮らせると思ったんです。自分たちらしい暮らしを楽しむなら早い方がいい。決断が遅くなれば体力的にも難しくなるし、実行するなら元気なうちがいい。さあ今だ！と行動に移しました」

### 家事動線より、 プランの魅力を重視。

プランについて奥様が提示された条件は3つ。「クローズドタイプのキッチンをおープンタイプにしたい」「リビングを広くしたい」「小さくても良いので和室がほしい」という、ごくシンプルなものでした。しかし、積水ハウスが「一番はじめに提案したプランは、あえなく却下されたそうです。」

「当初ご提案した際に重視したのは家事動線でした。もともとキッチンと洗濯機を置いている洗面室が行き来しやすい間取りだったので、その動線は変えないほうが暮らしやすいだろうと判断しました(担当者)」

その結果、基本的な間取りは現状と大きく変わらない提案となつてしまい、「主人と奥様から言われたのは『それではリノベーションをする意味がない』。もっと空間を広々と使える魅力的なプランに、ということ再度練り直したそうです。」

そうした経緯から誕生したのが、リビング+サブリビングの「ダブルリビング」という個性的なプラン。みんなが集うメインのリビングから、読書や音楽など趣味の時間を一人でゆっくり楽しむサブリビングへと、パブリックゾーンとプライベートゾーン

- 1/自然光が降り注ぐ開放的なリビング。天然木のフローリングはショールームで実際に肌触りを確かめて、裸足で歩いた時に心地よかったものを選んだそうです。
- 2/ソファ側から眺めたLDK。以前は独立キッチンでしたが(右奥)、オープンキッチンに変更して空間全体が広々と伸びやかになりました。
- 3/オープンタイプにリノベしたことで閉塞感がなくなり、LDを見渡せるようになった開放的なキッチン。「娘と一緒に料理したり、お友だちと会話をしみやくなったのが嬉しい」と奥様。カウンターに天然石(カレドニア)を使って、インテリア性も高められています。

